

住民の皆さんに愛される庁舎をめざして

●問い合わせ 役場庁舎建設推進課 ☎096(273)8969



町や専門委員会などが検討を重ねて、新庁舎建設の基本設計書の概要版で設計の基本方針を定めています。今回、その中から2つの項目を紹介いたします（内容は6月20日現在のもので今後の検討内容によっては変更の可能性があります）。

●住民サービスを効果的・効率的に提供する庁舎（平面計画） 各階のイメージをお伝えします

1. 住民ロビーを中心とする開放的で一体感のある空間

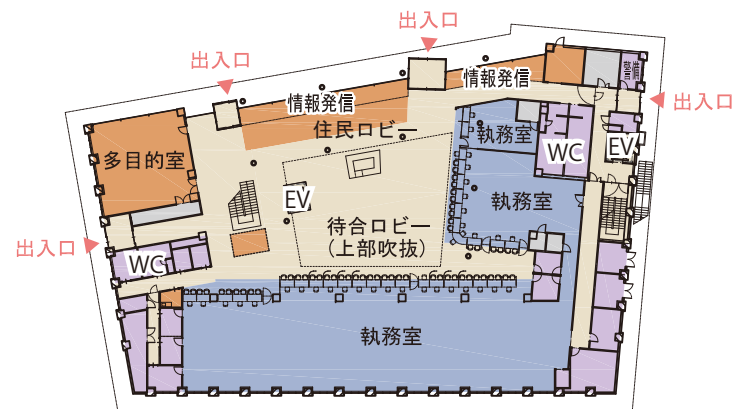
吹き抜けの「住民ロビー」を他の執務室が「コの字型」に囲み、全館（住民・議会・行政）が一体となる誰もが分かりやすい空間として計画しています。北側からの安定した光にみちあふれ、広場やテラスの緑が見える開放的な空間を目指します。

2. 利用しやすいフロア構成

住民サービスの向上、業務の効率化、執務室を中心とした全館機能や議会関連諸室の独立性の確保がしやすい構成です。

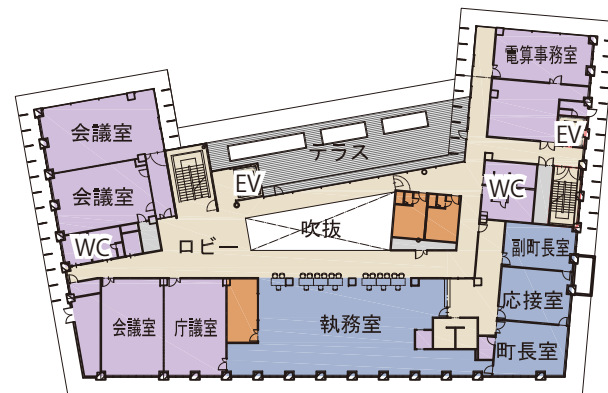
3. 将来の変化に対応できる快適な執務空間

執務空間は、レイアウトの自由度が高いワンルーム形式の空間を基本とします。また、自然採光や自然換気を適度に行える快適な執務空間を計画しています。



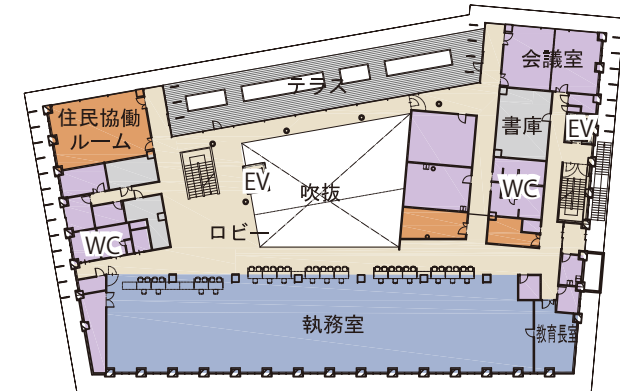
■1階（窓口フロア）

- ①窓口部門…住民の利用が多い窓口部門は1階に集約
- ②総合案内…住民ロビーの中心に、町民受付として設置
- ③情報発信コーナー…エントランスホール近くに配置



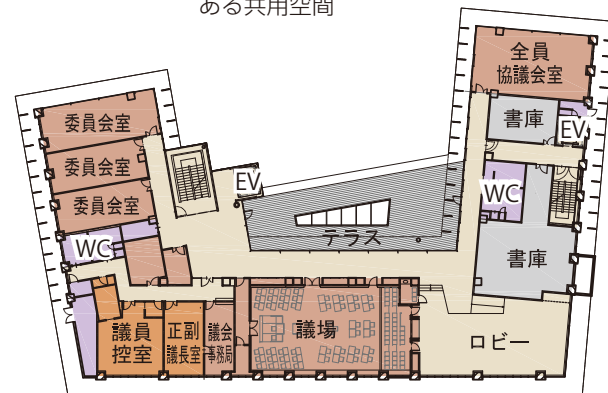
■3階（執行部フロア）

- ①執行部執務室…執行部と防災機能を集約して配置
- ②吹き抜け…住民ロビーを3層吹き抜けとした一体感のある共用空間



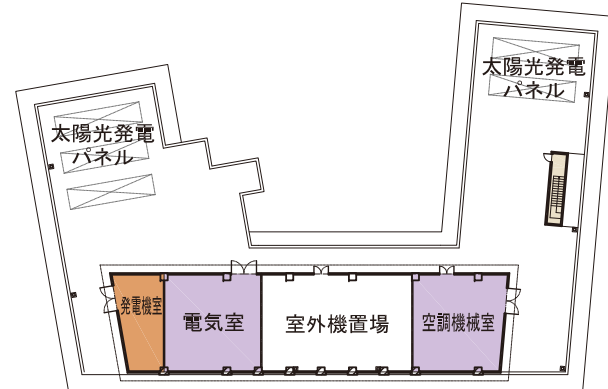
■2階（執務フロア）

- ①執務室…配置自由度の高いワンルーム形式
- ②EV（エレベーター）・階段・WC（トイレ）…東西2カ所に配置



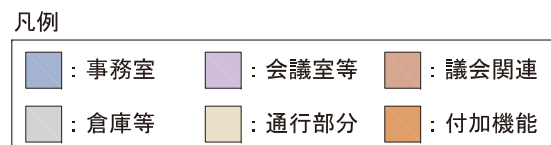
■4階（議会フロア）

- ①議会関連諸室…4階への集約配置による独立性の確保
- ②議会フロア…フロアの一部を休日開放できる計画



■5階（設備フロア）

- ①基幹設備…浸水対策として5階に配置
- ②太陽光発電パネル…屋上と併せて60kwを計画



●安全安心で災害に強い庁舎 構造形式として「免震構造」を採用しました

免震構造は、「東日本大震災（2011年）」、「熊本地震（2016年）」で他の構造形式に比べて被害が少ないことが報告されています。新庁舎では、地震に対する強さ、庁舎機能の維持と復旧の速さを考慮し、免震構造を採用しました。

■構造形式比較表

構造形式	耐震構造（構造体Ⅰ類）	制振構造	免震構造
イメージ			
	地震の揺れに耐える	地震の揺れを吸収する	地震の揺れを直接伝えない
耐震性能の確保	●建築基準法の1.5倍の耐力を確保し、構造体Ⅰ類とする。	○●制振装置で揺れを吸収し、Ⅰ類相当の性能を確保する。	○●免震装置により建物と地盤を切り離し、Ⅰ類相当の性能を確保する。
大地震時の揺れ	●地震の揺れに合わせて、激しく揺れる。	△●制振効果により地震の揺れは小さくなるが免震構造程の効果は無く、5階建て程度だと揺れの低減効果は少ない。	○●大きな振幅で、ゆるやかに揺れる。
大地震後の状態	構造体	●一般の建物よりも構造体の損傷を抑えられる。	○●耐震構造よりも構造体の損傷を抑えられる。
	非構造部材	●残留変形が残り、扉などの開閉に支障を生じる可能性がある。	●内外装のひび割れなど、損傷部分の復旧が必要となる。
	建築設備	●一定期間設備機能を継続できるが、補修を要する可能性がある。	●一定期間設備機能を継続できるが、補修を要する可能性がある。
	その他	●固定されていない家具や備品は、転倒・落下の可能性が高い。	●固定されていない家具や備品は、転倒・落下の可能性が高い。
熊本地震のような2回の大地震後の構造体	●損傷により機能維持できない可能性がある。	△●耐震構造よりも損傷を抑えられる。ただし、地震エネルギー吸収部材の疲労余裕度の確保が必要。*	○●軽微な損傷に抑えられる。ただし、地震エネルギー吸収部材の疲労余裕度の確保が必要。*

*疲労余裕度…物質に対して長年繰り返し力が加わり続けることで劣化し、壊れてしまう現象を防ぐための設計上の余裕のこと。